

野菜の需給・価格動向レポート(平成22年3月9日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	2月の価格動向				3月の見通し		
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均 販売価格					
		上旬	中旬	下旬			
					主産地の概況	卸の見通し (関東・東京青果協)	
葉 茎 菜	キャベツ	88.05	105	108	106	・入荷見込量: 14,814t (94) ・主産地: 愛知 (66)、神奈川 (17)、千葉 (13) 神奈川県では、干ばつと寒波で生育が遅れ早春ものは出荷終期となるが収量は多い。これから出荷最盛期に入る春物は遅れている。全体では前年同の見込み。	愛知が台風の影響で少なく入荷は平年より多かった前年を下回る見込み。入荷は前年の9割、価格は平年より若干高い見込み。
		79.74	101	108	103	・入荷見込量: 4,200t (105) ・主産地: 愛知 (49)、兵庫 (18)、大阪 (15)、和歌山 (9) ・主産地は愛知、神奈川、千葉	
	ねぎ (関東: 白ねぎ、 関西: 青ねぎ)	229.99	267	399	297	・入荷見込数量: 4,561t (94) ・主産地: 千葉 (45)、埼玉 (29)、茨城 (12)、輸入 (3) 埼玉県では、全般的に病害虫の発生は少なく、軟白部の伸長は概ね良好である。他産地の出荷の減少から出荷は、平年並みから微増を見込む。	天候不順で作柄悪く全般に肥大も悪い。入荷は前年を下回り価格は平年より高い見込み。
		450.51	409	480	381	・入荷見込数量: 270t (101) ・主産地: 徳島 (29)、大阪 (18)、香川 (16)、三重 (12)、高知 (10)、奈良 (7) ・主産地は千葉、埼玉。	
	はくさい	64.34	45	64	45	・入荷見込量: 7,203t (96) ・主産地: 茨城 (48)、兵庫 (24)、群馬 (13) 主産地は茨城県。秋冬ものは降雪の影響で傷みも心配される、出荷量は平年の8〜9割の見込み。	秋冬ものは少ないと予想され入荷は前年を下回り、価格は平年より高い見込み。
		76.33	62	68	60	・入荷見込量: 3,400t (100) ・主産地: 長崎 (34)、熊本 (17)、愛知 (16)、兵庫 (13)、大分 (10)、福岡 (6) ・主産地は茨城、兵庫。	
	ほうれんそう	307.66	428	478	390	・入荷見込量: 1,550t (103) ・主産地: 茨城 (29)、群馬 (24)、千葉 (22)、埼玉 (20) 群馬県では、作付面積は微増、一部の産地で病害が発生しているものの、収量への影響は少なく、作柄は並み。出荷量は前年並みを見込む。	今年は大幅に少なかった前年を上回るものの天候不順から不作気味と予想される。ハウスの産地はそれほど影響はない。入荷は前年を上回り価格は平年並みの見込み。
		341.25	420	379	340	・入荷見込量: 540t (96) ・主産地: 徳島 (60)、福岡 (17)、岐阜 (8) ・主産地は群馬、茨城、埼玉。	
	レタス	259.83	235	236	228	・入荷見込量: 7,110t (99) ・主産地: 茨城 (42)、香川 (14)、静岡 (12)、兵庫 (8)、栃木 (5) 栃木県では、春レタスの出荷は1月から始まったが、12月からの低温と乾燥でやや小玉傾向にある。生育はほぼ平年並みに経過しており、病害虫の発生は少なめの見込み。	茨城が遅れると予想されるがその他香川などの産地は増減があらう。前半は小玉傾向で量的に伸び悩むが後半は回復へ向かう。入荷も価格も平年並みの見込み。
		238.68	232	233	223	・入荷見込量: 1,350t (107) ・主産地: 兵庫 (44)、徳島 (20)、香川 (14)、茨城 (10) ・主産地は茨城、兵庫。	
	たまねぎ	76.15	139	142	145	・入荷見込量: 9,403t (85) ・主産地: 北海道 (74)、静岡 (13)、輸入 (10) 主産地は北海道。出荷量は前年を1割程度下回る。サイズは2L比率は低い。貯蔵は長期になっているが、大きく歩留まりが落ちることなく品質的にも良好。	静岡の新玉ねぎは冷え込みの影響で玉伸びが悪く、出荷量も伸び悩んだが3月に入れば徐々に増加。例年より後ろに出荷のピークが来ている見込み。中旬以降はこれまでより苦しい販売となるが、それでも例年よりかなり高め。入荷量は前年を下回り価格は平年を上回る見込み。
			141	142	137	・入荷見込量: 3,200t (80) ・主産地: 北海道 (56)、兵庫 (15)、長崎 (9)、静岡 (8)	
果 菜	きゅうり	370.98	365	382	420	・入荷見込量: 5,931t (102) ・主産地: 群馬 (22)、埼玉 (20)、千葉 (19)、茨城 (13)、宮崎 (11) 群馬県では、定植時期は平年並み。肥大遅れの傾向にあるものの、作柄は平年並み。3月の気温はやや高く、降水量はやや多い見込みから、順調な生育が見込まれる出荷量は不作で少なかった前年を上回る見込み。	今年は2月後半を底に3月には回復してピークになると予想される。入荷はほぼ前年並み価格は平年を上回る見込み。
		350.33	354	350	390	・入荷見込量: 1,250t (109) ・主産地: 宮崎 (42)、高知 (21)、徳島 (21)、愛媛 (7) ・主産地は埼玉、群馬、千葉。	
	トマト	332.60	434	412	412	・入荷見込量: 5,088t (101) ・主産地: 熊本 (22)、栃木 (17)、愛知 (11)、茨城 (8)、千葉 (6)、福岡 (6)、群馬 (6)、埼玉 (5) 栃木県では、促成長期どり作型は6〜7段中心に収穫中。下位段の着果負担と厳寒期のため小玉果実傾向となっている遅れていた生育も回復傾向で平年並み。冬作型は1月下旬から収穫開始、生育や果実肥大は平年並み。	作柄は基本的に良好で、2月の天候不順はあったが突がっている。3月上旬にひと山くると予想。その後は若干伸び悩むと予想。入荷は前年を上回り価格は平年を下回る見込み。
		311.06	405	380	383	・入荷見込量: 1,100t (121) ・主産地: 熊本 (45)、福岡 (19)、愛知 (13)、徳島 (6) ・主産地は熊本、栃木、愛知。	
	なす	389.03	447	419	389	・入荷見込量: 2,810t (103) ・主産地: 高知 (57)、福岡 (21)、佐賀 (5) 主産地は高知県。年末からの冷え込みで1、2月は量的に伸びを欠いた。花と花芽はついており、3月中旬から本格化の見込み。	今年は1、2月の天候不順の影響が残って前半は全般的に少ないと予想。入荷は前年並み、価格は平年を上回る見込み。
		397.74	436	402	361	・入荷見込量: 580t (110) ・主産地: 高知 (26)、福岡 (21)、熊本 (17)、岡山 (13)、大阪 (7) ・主産地は高知県	
	ピーマン	501.13	747	696	704	・入荷見込量: 1,500 (103) ・主産地: 茨城 (38)、宮崎 (32)、高知 (16)、鹿児島 (13) 茨城県では、品質・肥大状況ともに良好。病害虫の発生は散見されるが、生育への影響及び果実への被害は少ない。促成の作型では前年に比べ作付面積が増加傾向にある。一方半促成の作型については面積減が見られる。出荷量は平年並みの見込み。	木の状態も悪くなく作型が以前のレベルに戻っている。入荷は前年を上回り価格は平年より高い見込み。
		467.19	732	670	671	・入荷見込量: 330 (132) ・主産地: 宮崎 (57)、高知 (25)、鹿児島 (10)、和歌山 (6) ・主産地は茨城、宮崎。	
根 菜	だいこん	83.19	89	105	86	・入荷見込量: 12,187t (97) ・主産地: 神奈川 (57)、千葉 (41) 神奈川県は、出荷は最盛期を過ぎたが遅れていた生育が戻り、出荷が順調。出荷量は平年並みとなる見込み。	2月中旬以降の降雨で作柄が好転するも、前半は生育遅れと肥大不足が懸念される。さらに、作付けの減少も影響して量的には前年を下回り、価格は平年より高い見込み。
		80.70	72	75	70	・入荷見込量: 2,700t (94) ・主産地: 長崎 (29)、徳島 (26)、福岡 (9)、鹿児島 (7)、岐阜 (7)、香川 (5) ・主産地は神奈川、千葉。	
	にんじん	96.24	70	79	89	・入荷見込量: 8,406 (107) ・主産地: 千葉 (48)、徳島 (27)、埼玉 (8) 主産地は千葉県。3月も十分に多くサイズはL中心で出荷が継続する見込み。	主力の千葉が潤沢ベース、価格は徳島の比率が高まって上昇に転じる予想。収穫の機械化などによ効率上がり、関東各県の作付面積は増えている。入荷は前年を上回り価格は平年を下回る見込み。
		104.73	79	85	90	・入荷見込量: 2,300 (92) ・主産地: 鹿児島 (59)、徳島 (23)、長崎 (7) ・主産地は千葉、徳島。	

主力の千葉が潤沢ベース、価格は徳島の比率が高まって上昇に転じる予想。収穫の機械化などにより効率率が上がり、関東各県の作付面積は増えている。入荷は前年を上回り価格は平年を下回る見込み。

種類		2月の価格動向				3月の見通し		
		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均 販売価額					
			上旬	中旬	下旬	主産地の概況		卸の見通し (関東、東京青果㈱)
い も	さといも	217.95	213	232	230	・入荷見込量：895t (101) ・主産地：埼玉 (44)、千葉 (36)、輸入 (7)		埼玉県では、収穫作業が終了した年末以降、概ね順調に出荷。作柄は良好であったものの出荷開始当初に前進化した影響から当月の出荷量は平年並みを見込む。
		219.65	222	235	225	—		
	ばれいしょ	88.17	132	129	136	・入荷見込量：8,427t (94) ・主産地：北海道 (74)、鹿児島 (22)		北海道の在庫量は平年より少ない。店頭販売の中心となる九州産は天候不良で収穫作業が進まず、2月末にかけて品薄状態となったが3月の入荷は潤沢の見込み。入荷量は前年を下回り価格は平年を上回る見込み。
			114	112	124	・入荷見込量：4,300t (91) ・主産地：北海道 (57)、鹿児島 (34)、長崎 (6)		

1) 平均価格は、過去9年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。
2) 旬別平均販売価額の背景なしは保証基準額を上回るもの。背景ありは下回るもの(消費税は除く)。
3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック

1) 入荷見込量は関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
2) 主産地は東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
3) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。

1) 「卸の見通し」の内容は、東京青果株式会社「野菜展望」をもとに機構が編集したものである。
2) その後の気象条件の変化等により変動があり得る。

1) 平均価格は、過去9年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)。
2) 旬別平均販売価格の背景なしは保証基準額を上回るもの。背景ありは下回るもの(消費税は除く)。
3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック

1) 入荷見込量は関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。
2) 主産地は東京都及び大阪府中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
3) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人等からの聴取りをもとに機構が作成したものである。

1) 「卸の見通し」の内容は、東京青果株式会社「野菜展望」をもとに機構が編集したものである。
2) その後の気象条件の変化等により変動があり得る。

2 野菜の需要動向

家計調査でみると、1月の1人当たりの生鮮野菜の購入量は、4,240g、対前年比99%となっている。購入金額については、1,551円、対前年比100%となっている。
また、小売物価統計によると、2月のキャベツの小売価格は過去5年平均比104%、レタスは同105%となっている。

1 生鮮野菜の購入量及び金額

年	過去5年平均		平成21年		平成22年	
	購入量 (g)	金額 (円)	購入量 (g)	金額 (円)	購入量 (g)	金額 (円)
1月	4,130	1,521	4,277	1,548	4,240	1,551
2月	4,325	1,548	4,536	1,579		
3月	4,675	1,690	4,799	1,685		
4月	4,758	1,783	4,783	1,805		
5月	5,127	1,884	5,216	1,918		
6月	5,042	1,856	5,180	1,888		
7月	4,471	1,668	4,645	1,648		
8月	4,330	1,703	4,321	1,752		
9月	4,913	1,783	5,141	1,828		
10月	5,382	1,807	5,691	1,767		
11月	5,024	1,569	5,307	1,560		
12月	5,185	1,797	5,213	1,751		

資料：総務省「家計調査報告(二人以上世帯農林漁業世帯を除く)」

2 主要野菜の月別小売価格(東京都部)の推移 (単位：円/kg)

	キャベツ		5カ年 比 (%)	レタス		5カ年 比 (%)
	過去5カ 年平均	平成22年		過去5カ 年平均	平成22年	
1月	201	173	86	613	639	104
2月	188	195	104	500	526	105
3月	190		0	464		0
4月	231		0	435		0
5月	188		0	376		0
6月	151		0	339		0
7月	149		0	315		0
8月	159		0	449		0
9月	153		0	472		0
10月	146		0	419		0
11月	129		0	339		0
12月	146		0	456		0

注1：過去5カ年は平成17～21年
注2：2月の値は、1月中旬の速報値

資料：総務省統計局「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

中国からの野菜の輸入量は、平成20年には114万トンであったものが、21年では対前年比96%の109万トンとなっている。22年1月は対前年比96%の9万2千トンとなった。
植物防疫検査統計によると、2月は、たまねぎについては前年同月比116%、にんじん同37%、ねぎ同122%となっている。

野菜等の輸入数量の推移について

区分	平成20年		平成21年		平成22年1月	
	前年比		前年比		前年比	
生鮮野菜	602,733	75	615,271	102	54,719	116
加工野菜	1,660,663	98	1,569,627	95	129,034	95
野菜輸入量合計	2,263,395	90	2,184,898	97	183,752	100
うち中国産野菜合計	1,147,126	87	1,098,415	96	92,513	96
中国産シェア	51		50		50	

資料：財務省「貿易統計」

主な野菜の輸入動向

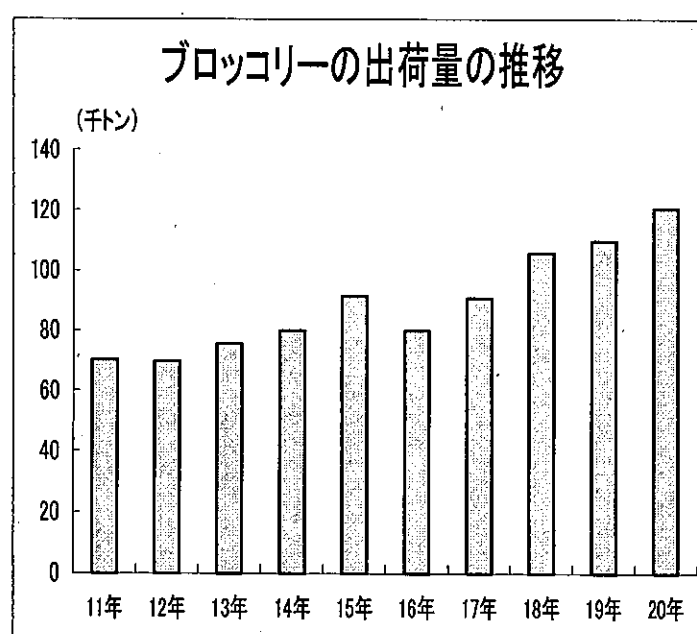
品目	輸入先	(単位：トン、%)		
		(A) 2009.2	(B) 2010.2	(B)/(A)
たまねぎ	合計	13,656	21,335	156.2
	中国	9,982	11,671	116.9
にんじん	合計	2,719	6,845	251.7
	中国	2,625	977	37.2
ねぎ	合計	1,712	787	46.0
	中国	638	146	22.9
ねぎ	合計	2,233	2,745	122.9
	中国	2,231	2,743	122.9

資料：農林水産省「植物防疫検査統計」(2010.2は3月第1週現在で速報値である。)

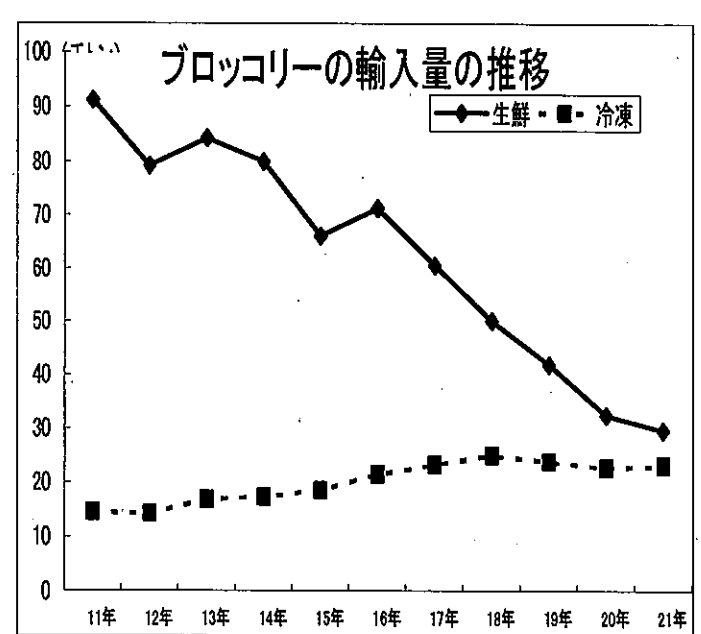
4 トピック

ブロッコリーの動向について

ブロッコリーの輸入についてみると、生鮮の輸入は平成21年には、30千トンとなり平成11年の91千トンの3分の1程度となっている。
冷凍の輸入は、平成21年には23千トンとなり平成11年の15千トンから1.5倍程度にとどまっている。
この間国内生産は平成11年の70千トンから平成20年の121千トンに拡大している。
これは、栄養や機能性が評価されたことによる需要の増大、国産品の品質の良さが背景にあるものとみられる。



資料：農林水産省「野菜生産出荷統計」



資料：財務省「貿易統計」